

第5回 11月21日(金)

「現代の朝鮮語辞典について」

講師：五十嵐 孔一 東京外国語大学外国語学部言語・情報講座東アジア課程准教授

朝鮮語辞典は「どのように引くのか」そして「どのような辞典があるのか」という二つの点からお話を進めたいと思います。

まず朝鮮語辞典は「どのように引くのか」から述べていくことにします。最近では駅の掲示板などでハングルを見かけたり、テレビのドラマや映画などで朝鮮語を耳にする機会が増えたように思われます。新たに出会った語彙の意味を解き明かすためには辞典を活用することができます。今回の講座では文字の配列や文法の記述の違いに注意しながら、辞典の引き方について述べたいと思います。また現代は紙を媒体にした辞典だけではなく、電子辞典やインターネット辞典も普及していますので、それらの使用方法にも触れることにします。

次に朝鮮語辞典には「どのような辞典があるのか」について、出版した国別と年代別とに分けて概観することになります。主に韓国、共和国、日本で出版された辞典を中心に、年代を追って見ていくことにします。ところで現代の朝鮮語辞典の特徴の一つに巨大コーパスの利用が挙げられます。韓国の延世大学校言語情報開発研究院で編集した『연세한국어사전(延世韓国語辞典)』(1998)がその嚆矢でした。それ以前に出版された辞典との比較を通して、その特徴を検討してみたいと思います。また漢字辞典、発音辞典、文法辞典、分かち書き(띄어쓰기)辞典などの各種の辞典についても述べることにします。